

南洋  
クサ  
事件  
関係者  
退島  
事件

0546

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

陸軍

警務七

大正九年六月五日

臨時南洋群島防備隊司令官野崎小十郎

海軍大臣加藤友三郎殿

第一課

第二課

退島者ニ関スル件

軍務局

法務局

本月四日電報々告致置候久サイ事件関係者ニシテ今松山丸便ニテ退島スル内地人及鮮人本籍族稱職業氏名年齢別紙ノ通ニ有之候條

右報告ス  
追テ本年五月廿七日第一七三號電報々告致置候佐藤

末夫外三名ハ重複ニ付記入致サス候條申添候

(別紙ニ葉添付)

了

海軍

0547

9.7.27  
受換

受務局  
9.6.18

退島者本籍族稱職業氏名年齢

本籍 千葉縣夷隅郡中川村字作田八百九十番地平民佐藤次郎

南洋拓殖株式会社員 吉原 勤 明治九年

全 大分縣大分市砂町通り千八百三番地平民佐藤藏長男

全 会社員 藤宮雅二郎 明治三十年

全 大分縣大分郡松岡村五千九百五十七番地平民佐藤

全 会社員 安藤寛一郎 明治六年

全 縣全部 戸次村大字中戸次四百一十番地平民佐安武長男

全 会社員(見習) 三井 安壽 明治廿六年

全 縣全部 全村大字上戸次九百二十七番地平民佐友四郎三男

全 会社員 廣田 実 明治廿三年

全 縣全部 判田村大字中判田千九百七番地平民甲六郎三男

全 会社員 藤田留守平 明治廿一年

全	全	全	全	全	全	全	全	全	
全大邱府達城郡町十九番戸	南洋拓殖株式會社雇人被備豫金 生 伊 當廿四年	朝鮮慶尚北道達城郡玄風面院堂洞八十七番地	全會社全上 阿南傲八 當廿九年	全縣大分郡戸次村大字下戸次九百六十一番地平民戶生佐三郎長男	全南洋貿易株式會社雇人被備豫 附 當廿九年	全縣北海部郡川添村官川内三番地平民戶生鉄五郎四男	全商會全上 早田徳二 當二十年	全縣西國東郡草地村字畑四百三十三番地平民戶生義達男	全縣大分郡判田村大字上判田四千四百三十六番地平民戶生喜五郎男 ホトナト村本間商會雇人被備豫山崎浪太郎 當廿二年
								小池 三 當廿一年	鮮馬縣邑樂郡火筒野村千七百四十七番地平民戶生重五郎男 全會社雇人被備豫





遭難

須賀

陸軍部

第二

分

陸軍部

陸軍部

陸軍部



陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

秘

生

軍務局

大正九年

四月

二十七日

午後

八時三十分

無線局著

受信者 大臣

(暗号) 電報譯

三月三十日警第五十二號報告「サイ」島事件関係者「サイ」松山丸復「サイ」退島内地人「サイ」一名中佐藤末夫、佐藤京策、山崎猪六、安藤森太郎、四名無断「サイ」サイパン島「サイ」下船残留セルヲ発見セル「サイ」次復松山丸「サイ」歸還セル「サイ」ル豫定ナリ

右報告人 第一課 第二課小牧

海軍

0552

軍務局

29



軍務局

法務局

艦政局

第九一

大正九年三月三十日

臨時南洋群島防備隊司令官 野崎小十郎

海軍大臣 加藤友三郎 殿

第一課  
第二課

退島者ニ関スル件

本月三十日 退報々々 致し置候 客々 十月クサイ  
事件ノ 尚 信者ニテ 退島シテ 命シタル 内地人ノ  
内 本月三十日 トラウク 發ノ 杉山丸ニテ 歸環者ノ  
本籍 横濱 船業氏名 年 別紙ノ 通り 有之  
候 局員

報告 下

第六課

海軍

海軍

0553

9.4.19  
文庫



退島者水籍族林職業氏死年終

水籍 干葉縣東宮飾郡流山町五六番地庄平氏喜助三男

南洋拓殖株式會社社員 岩田喜雄 備三十一

△ 大分縣直入郡宮城村一七六番地庄平氏重利二男

△ 會社社員 工藤民明 備三十一

△ 大分縣大分郡戸次村四三九番地庄平氏全同藤平

△ 會社社員 依藤末夫 備十九

△ 大分縣大分郡東大分村大分大牧九四番地庄平氏全同藤平

△ 會社社員 依藤巳吉 備三十一

△ 大分縣北津守郡上北津箇村大分田原番地庄平氏全同藤平

△ 會社社員 依藤京策 備十八

△ 大分縣大分郡野村大分志津由三八番地庄平氏全同藤平

△ 會社社員 村上 備十六

△	△	△	△	△	△	△	△	△
富山縣下新川郡信濃村 三番地之主手天孫松二男	新木縣河内郡平石村大庄下平 之番地之主手天孫吉四男 全會社員	愛媛縣喜多郡久米村大庄大津 番地之主手天孫吉三男 全會社員	大分縣大分郡下庄村大庄下庄 四番地之主手天孫 依藤文彦 當十八七	廣見島縣薩摩郡徳城村八番地 之主手天孫一男 中村常吉 當十五六 全會社員	山崎 精文 當七六 全會社員	全縣全郡判田村五八番地之主手 天孫文作二男	川村 博八 當十九 全會社員	全縣全郡庄次村大庄中庄 庄次番地之主手天孫龍吉三男 全會社員
菊地 誠三 當六八								

0555

△ 新瀉縣吉志郡 △會社備人	△ 新瀉縣吉志郡 △會社備人	△ 新瀉縣吉志郡 △會社備人	△ 新瀉縣吉志郡 △會社備人	△ 新瀉縣吉志郡 △會社備人	△ 新瀉縣吉志郡 △會社備人	△ 新瀉縣吉志郡 △會社備人	△ 新瀉縣吉志郡 △會社備人	△ 新瀉縣吉志郡 △會社備人	△ 新瀉縣吉志郡 △會社備人	△ 新瀉縣吉志郡 △會社備人	△ 新瀉縣吉志郡 △會社備人
水島 菊松 當世中	諸橋 弘吉 當世三男	田中 武平 當三十年	林 豊吉 當三十七年	八木 正司 當八十年	山縣 政利 新庄村中村三番地之主 平民六一一	活用 真信 當世三男	大分縣大分郡 赤坂村 赤坂下 赤坂西五番地之主 平民赤坂村甥	△ 赤坂 留一 當世中			

0556

								今	岩手縣西磐井郡小前村大森赤萩	今	番地三平氏正助惣
								今	大分縣大分郡利田上利田	依々木又治	常世四郎
								今	大分縣大分郡利田上利田	安藤森太郎	常十九郎

0557

秘

軍務局

第一課  
第二課  
第三課  
第四課  
第五課  
第六課  
第七課  
第八課  
第九課  
第十課  
第十一課  
第十二課  
第十三課  
第十四課  
第十五課  
第十六課  
第十七課  
第十八課  
第十九課  
第二十課  
第二十一課  
第二十二課  
第二十三課  
第二十四課  
第二十五課  
第二十六課  
第二十七課  
第二十八課  
第二十九課  
第三十課  
第三十一課  
第三十二課  
第三十三課  
第三十四課  
第三十五課  
第三十六課  
第三十七課  
第三十八課  
第三十九課  
第四十課  
第四十一課  
第四十二課  
第四十三課  
第四十四課  
第四十五課  
第四十六課  
第四十七課  
第四十八課  
第四十九課  
第五十課  
第五十一課  
第五十二課  
第五十三課  
第五十四課  
第五十五課  
第五十六課  
第五十七課  
第五十八課  
第五十九課  
第六十課  
第六十一課  
第六十二課  
第六十三課  
第六十四課  
第六十五課  
第六十六課  
第六十七課  
第六十八課  
第六十九課  
第七十課  
第七十一課  
第七十二課  
第七十三課  
第七十四課  
第七十五課  
第七十六課  
第七十七課  
第七十八課  
第七十九課  
第八十課  
第八十一課  
第八十二課  
第八十三課  
第八十四課  
第八十五課  
第八十六課  
第八十七課  
第八十八課  
第八十九課  
第九十課  
第九十一課  
第九十二課  
第九十三課  
第九十四課  
第九十五課  
第九十六課  
第九十七課  
第九十八課  
第九十九課  
第一百課

七

大正九年一月

四日 午前 〇時 五十分  
五日 午後 七時 五十分  
無休 局着

受信者 大臣

(晴野)電報譯

ケサ、島朝鮮人騷擾事件最上ニホカシ民政  
署長及警吏二名ヲ乗セ派遣調査シタル所  
ニ依テ事件ハ昨年十月二日朝鮮人ヲ傷者ガ  
南洋拓殖工業株式會社ニ對シ賃金直上ヲ  
強要シ翌日作業地ニ於テ監督邦人ト言語  
不通ノ為謀解ヲ生ジ互ニ事關シタルニ始リ  
之カ急報ニ接シ應援ニ向ヒタル邦人ハ關係朝鮮  
人約三名ヲ殴打シタル為遂ニ死亡者二名ヲ出ス

海軍

0558

海軍 薄美減半案十三行野紙

至ルタルモノニシテ主ナル邦人及朝鮮人数名ヲ知ス  
ニシテ致シ裁判ニ付シ他ハ退去ヲ命ジ又ハ訓戒ニ  
止ムル方針ナリ、会社討朝鮮人間事件後  
直ニ平靜ニ復シテ続キ作業ニ従事シツツアリ  
今回ノ事件ハ在留日本人及島民ニ多少恐怖心  
ヲ惹起セシメタルモ最上ノ派遣ニ依リ何レモ安堵シ  
又在留外人ニモ悪影響ナカリシガ如シ  
右概報ス

海 軍

0559

遭難

三〇五

秘

大正九年

四月

一日

午前

十一時二十分無

線局著

午後

時

分トラツク局發

發信者臨時南洋群島防備隊司令官

受信者大臣

(暗號) 電報譯

軍務

局

三月二日 警備隊 四十三號 報告 客年十一月クサイ  
島事件ニ於テ關係者ニシテ退島ヲ命シタル

法務

局

内地人ノ内岩田喜雄外二十名ハ三月三十一日ト  
發局松員丸便ニテ帰還セシム内地到着後

ハ何レモ視察取締ノ要ナキモノト思料セララル  
右報告ス

艦政

海軍

0560

軍務局

五三三

大正九年六月廿四日午九時 分 トラツク 局 發  
大正九年六月九日午七時 分 海軍 局 發

發信者 臨時南洋群島防備隊司令官

受信者 大長

（普通電報） 報譯

三月五日警第四三號報告 「クサイ」事件關係

者中内地人吉原勤外十七名、鮮人金生伊外

六名（以上人名ハ書面）ハ六月六日「トラツク」ヲ豫定

「松山丸」便ニテ退島セシム

右報告ス

第一課  
第二課



海軍

0561



供覽

軍務局

法務局

艦政局

警備四三號

大正九年三月五日

臨時南洋群島防備隊司令官野崎小十郎

海軍大臣加藤友三郎殿

小林

本年一月四日電報報告致置候クサイ島

ニ於ケル内地人對朝鮮人爭鬪ノ顛末

左記ノ通寫ニ有之候

右報告

第六課

記

南洋拓殖工業株式會社ハ大正七年七月以來クサイ島ニ出張所ヲ置キ島民所有

0562

山野ニ生育セルカラオ麻ノ採取事業ヲ  
 始メタリシカ間モナク同麻ノ價格下落シ  
 收支償ハサルニ至リタルヲ以テ昨年四月事  
 業方針ヲ更メ右土地ヲ開墾シテ草綿  
 ヲ栽培スルコトニシ爾末多数ノ労働者ヲ  
 使用シ事業ヲ進メシマリ労働者中  
 ニハ約八十名ノ朝鮮人アリテ給興上  
 ニ関シ時々會社ニ対シ苦情ヲ訴ヘタリ  
 シカ昨年十一月騒擾シテ死傷者ヲ  
 出シタル旨報告ニ接シタルヲ以テ十二月  
 十五日軍艦最上ヲ派遣シ之ニホナベ  
 長政署長及警吏二名ヲ便乗調査  
 セシメタル處其報告ニヨレハ

0563

事件、當時南洋拓殖株式會社ハ内地  
 人三十名朝鮮人七十六名、労働者ヲ使  
 用シ、アリテ朝鮮人ニ対シテハ曩ニハ  
 雜木採取一町歩金二十六圓ノ受員若クハ  
 日給八十圓内外ヲ支給シタリシカ昨年  
 十月三十一日鮮人一同罷業シテ月給ニ  
 変更方要求シタルニ対シ日給五十圓内外  
 ノ増額ヲ為スコト、ナシ双方ノ合意ヲ經ル  
 七翌十一月一日猶就業セズ月給ニ変更方  
 ヲ求メタルニ対シテ月給九圓乃至十四圓及  
 食料ヲ給スルコト、シタルニ同月二日モ依  
 然就業セズ月給二円乃至五圓ノ増額ヲ  
 強要シ、會社支配人岩田喜雄ハ遂ニ

一

道

0564

之ヲモ容レタリシカ成間ニ於テ社員ノ感  
 情ヲ害シタルコト蓋シ歎シトセヌ  
 翌三日午余七才頃夕モシサツク第二農  
 場ニ於テ作業ヲ始マルニ際シ作業主任  
 渡邊修及母藤寛一郎ト鮮人ト間  
 ニ部署ノコトニ関シ言語不通ノ為ニ争鬪  
 ヲ惹起シ右兩名ハ多数鮮人ノ為ニ乱  
 打セラレ且ツ鮮人小庵ニ拘束セラレタリ  
 午前八才頃此急報レ口島ニ於ケル会社  
 出張所ニ達スルヤ若田支配人ハ各  
 棍棒ナイフ等ノ兇器ヲ携帯セル会社  
 使用ノ内地人三十余名及多数ノ島民ヲ  
 率ヒテ之カ救援ニ向ヒ午前十一才頃

0565

現場ニ到着シタルニ優勢ナル應援隊ヲ  
 見テ既ニ氣勢ヲ奪マレタル朝鮮人ハ何  
 等抵抗ヲ為サス亦渡邊安彦西人ハ負  
 傷大ナラサルヲ認メタルニ拘ラス年一少寒氣  
 内地人等ハ各携帶セル棍棒類ヲ以テ  
 鮮人ヲ乱打シ金生伊外二十三名ニ重  
 軽傷ヲ負ハセ翌四日之ヲレロニ送り加療  
 中一名逃走者アリタルヲ以テ敵愾心猶止  
 マサル内地人ハ棍棒類ヲ以テ鮮人ヲ殴打  
 シ之ヲ為張竟到崔達好ノ二名ハ同日遂ニ  
 死シタリ其他ノ負傷者ハ孰シモ数日中  
 ニ快癒シ勞務ニ從ヒツクアリテ事件ノ后  
 会社對鮮人間ハ直ニ平靜ニ復シタルモ

二五  
 五五

0566

會社ハ當分事業ヲ縮少シテ草一綿及甘  
 蔗ノ研究先試作ニ止メ從業員ハ大部公  
 内地へ召還スル由申出タリ  
 事件發生ノ原因トシテハ物價騰貴及  
 新聞紙等ニヨル各地同盟罷業ノ報道  
 ハ何レモ主要ナルモノト認ムレトモ朝鮮其  
 他ヨリノ不穩ナル宣傳又ハ危険ナル文  
 書ノ往復等ハ末々之ヲ發見セス  
 事件關係者中一已ニポナニ第一審裁判  
 廳ニ於テ審理ヲ遂ケ判決ヲ下シタルモノ  
 及猶今后廢分スヘキ見込ノ者尤ノ如シ  
 而シテ西詰ハ何レモ行政廢分トシテ刑執  
 行后更ニ退島ヲ命スル等ナリ

海軍

0567

内地人 政打	罰金 參拾圓	全	全	徵 役 二 月	全	徵 役 四 月	全	全	全	徵 役 八 月	處
會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	分	濟
社	社			社	社	社	社	社	社	備	人
及 眞 青	丁	金	金	朝鮮人	山	早	吉	玉	廣	笠	原
朝 鮮 人	扶	朝	生	崎	浪	田	原	井	田	原	滝
勞	操	克	弗	伊	郎	次	勤	壽	實	造	

0568

傷條件ニ関シ相手方ヲ強迫シタル  
事ニ依ル

今後處分見込

三浦角一	南儀八	田留守平	佐藤巳吉	中村常吉	小池毎三	工藤民明	宮雅五郎	安藤寛一郎
社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会
備人	口真成	生	中	小	工	藤	安	藤

0569



以上司法處分行改處分行併行、分

〇〇〇

△△△△△△△△△△△△△△△△

社社  
備員  
人

村	佐	山	佐	佐	玉	川	李	姜	趙	李
上	藤	崎	藤	藤	井	村	鳳	實	雲	竟
茂	夫	猪	末	文	勉	傳	竟	慶	竟	發

0570

<del>安</del>	<del>赤</del>	<del>玉</del>	<del>活</del>	<del>林</del>	<del>田</del>	会	会	会	<del>会</del>	<del>会</del>	会
<del>藤</del>	<del>峰</del>	<del>井</del>	<del>田</del>	<del>木</del>	中	津	衛	水	菊	渡	岩
<del>森</del>	<del>源</del>	嘉	正	豊	武	島	藤	島	地	邊	田
<del>太</del>	<del>一</del>	信	司	吉	平	林	豊	菊	藏	三	喜
<del>郎</del>		信	司	吉	平	平	考	松	三	備	雄

洋  
算

0571

以上退	島	今	ミ 分	會	社	員 佐 木 又 次	次
-----	---	---	--------	---	---	-----------------------	---

0572



供

軍務局

法務局

第九六號

大正九年五月六日

海軍大臣加藤友三郎殿  
陸軍南洋群島防備司令部 野崎小十郎

騷擾事件之関スル件

首標ノ件別紙寫ノ通サイバニ民政署長ヨ

リ報告有之候条  
右報告ス

別紙七葉添付

局員

海軍

0574

寫

大正九年四月十日

サイパン民政署長堀口満貞

臨時南洋群島防備隊司令官野崎小十郎殿

騒擾事件報告

客月十四日午方、才以及下西村拓殖株式會社サイパン出張所ニ於テ平素ノ言動不穩ナル沖繩縣出身労働者運天先仁池原波溜親泊亀千代宮城松吉知名輕信、五名ヲ解雇スルヤ之等ハ其ノ解雇ヲ不當トシ自ラ同縣人會評議負ニシテ總會召集權アルヲ利ニ道ニ宿舍前空地ニ之ヲ召集セリ相

毎 日

0575

會スルモノ約二百名(縣)會負約三百名アルモノ中約  
 百名ハ農場其他ニ出テ不在(而シテ五名ハ解  
 雇ノ事實ヲ告ケ其ノ理由ニツキ何等会社側  
 ノ釋說明ナキハ甚ク不都合ナリ可然一同ノ助  
 カヲ乞フ旨ヲ述ブルヤ玉那霸山渡嘉敷三  
 良大城龜三城間盛壽金城加那栄一比樽  
 等率先之ニ初シ即刻一同ニテ會社ニ肉迫  
 シ相當ノ釋說明ヲ求メシレナキニ於テハ其取  
 消ノ要求セシ其方法ハ五名ヲ解雇スルニ於  
 テハ縣人一同共ニ退社スヘシト脅迫スヘシト貴  
 議ニ衆皆之ニ同シ直ニ事務所ニ殺到シ此  
 意味ヲ以テ交~~手~~數回共ニ峻拒スル處トナリ  
 何等妥領ヲ得ス然ルニ午~~後~~十一時頃縣

0576

人會長佐次田秀電ノ急ヲ聞キテ駆付クルヤ  
 獨リ自ラ同社農坊長堀江諫ヲ其宅ニ  
 訪ヒ詳ク雇ノ理由ヲ尋究シツ、アルヲ前記親  
 泊飛千代屋カニ於テ立向中堀江ハ佐々田  
 ニ本件ハ現場監督松田豊信ヨリノ申出ナ  
 リト話シ居ルヲ立向キ之ヲ一同ニ報スルヤ衆  
 皆更ニ激シ松田ニ對シ報復ヲ為スヘク其  
 所在ヲ搜索シツ、アルヲ察知シ松田ハ堀江ニ  
 哀訴シ遂ニ同家ニ匿庇ヲ受ケタルヲ一同ノ  
 覺知スルトコロトナリ更ニ轉シテ堀江ニ完ニ迫リ松  
 田ノ引渡シヲ要求セルモ才己ニ保更夜爲ニ  
 乘シテ不穩ノ孝アラニヲ慮リ堀江ハ翌朝ヲ  
 期ニ相當ノ方法ヲ講スヘント誓フヤ衆漸

毎

頁

0577



フマヲ容レ午後十二時頃一先退散セリ  
 越ヘテ十五日午九時頃前記群衆ハ再  
 ビ車務所ニ迫リ松田ノ引込シテ強要セ  
 ルモ其情益々険悪ニシテ不測ノ加害アラシ  
 惧レ遠巡セルヲ見ルヤ群衆ハ豫テ案内  
 ヲ知レル堀江宛(車務所ト称劇)ニ肉迫シテ包  
 囲セリ之ヨリ先堀江ハ車ヲ燃不絶ナルヲ  
 周圍ノ雨戸ハ之ヲ密閉シ夫々鎖鑰ヲ  
 シ更ニ屋内ニ車務員林田一枝部  
 木下新花外現場監督数名ヲ概ニ警戒  
 火ニ努メタリ然ルニ群衆ハ前記連天先仁外列  
 拳ノ者ノ平先指揮ニヨリ雨戸ハ袋等ヲ  
 乱打シ又ハ多衆ノ力ヲ恃シ之ヲ押倒シ甚

0578

他教々抄ノ一破壊又ハ抄損或ハ四隔損壞ヲ来  
 之遂ニ声ヲ限リ一車一務負等ノ制止抑壓  
 スルヲ難顧ニス周固呼應ニテ軍天先仁池  
 系波留親泊亀千代宮城松古知名乾信  
 伊波孝等屋内ニ侵入ニ或ハ松田ノ引渡ヲ  
 殆談ニ又ハ車一務負ト格闘シヲ演シ又ハ蚊帳  
 内ニ竊踏セル杉田豊真ヲ引出サントスル等狂  
 暴ヲ逞フスルヲ以テ車一務負等ハ故ヲ既ニ民政  
 署ニ急報シアレハ最早到達スニ諸事出  
 張負ノ指揮ヲ付ツテ告クルヤ群衆ハ始メテ  
 退散セリ  
 依テ直ニ急使ヲ以テ當署ニ届出ヲ為セリ之  
 ヲ以テ即刻警吏ヲ急派シタルニ群衆ハ宿

毎  
 頁

0579

合ニ集此ノ何事ヲカ凝議シツ、アリ未タ金ヲ  
 鎮靜ヲ見タリト云フヘカラス堀に宅ハ兩戸窓  
 等数ヶ所破壊セラレ屋ノ内カ混乱ヲ極メ  
 加之林田事一務員ハ屋良杉ニ手攀ヲ以テ  
 死打セラレ左眼下ニ長約三分五厘ノ裂傷ヲ  
 負ヒ事務員等尚我慄ヲ禁シ得ス當時ノ暴  
 状想見セラレ之ニヨリテ出張ノ警吏等ハ高  
 喧燥ヲ極メツ、アル群一集ニ対シ嚴戒ヲ與ヘ暴  
 拳ヲ制止スルハ共ニ一面其首魁タル運天  
 先仁外四名ヲ現シ強擄被告トシテ引致シ  
 引續キ取調續行更ニ其中一其情最重キ  
 屋良杉外四名ニ引致收監シタル處群衆皆  
 之ニ畏怖シ其後毫モ不穩ノ状ナシ依而極

0580

✓

カカ檢擧ヘカヲ致シ以上首魁一運天  
 先仁池原波留宮城松吉親泊飛代  
 知名輕信、五名傷害犯屋良松平、先  
 指揮、又ハ助勢者玉那霸山以下十五名、  
 罰罪証ヲ檢擧シタルモ監獄ノ設備不完全  
 ナルヨリ刑ノ執行上支障ヲ来スト将来治  
 安ヲ慮リ首魁五名及屋良松ヲ居住禁  
 止、安分ニ附シ本月三日發松山丸便ヲ以テ  
 退島セシメ其他ノ被告ニ對シテハ本月八日  
 左記頭書ノ通り夫々安分ニ罪狀輕微ナル  
 其他ノ被告ニ對シテハ微罪裁~~成~~安分ニ附セリ  
 而シテ其後被告及沖繩縣一般ノ動靜  
 一由査スルニ當テ輕~~重~~ヲ悔悟シ極テ謹慎

毎頁

0581



				同	同	同	罰	同	懲	同
							金		役	
							十五		二十	
				上	上	上	円	上	日	上
				吳	阿	新	城	池	中	金
				屋	加	垣	間	原	程	城
				仁	嶺	登	松	山	亀	加
				五	嘉	嘉	三	戸	助	那

3

0583



寫

大正九年四月廿日

サイバニ民政署長堀口満貞

臨時南洋群島防備隊司令官野崎小十郎殿

居住禁止處分報告

左記六名本月三日渡松山丸便ヲ以テ居住

禁止處分ニ附シ退島セシム

右報告ス

記

一本籍族称職業氏名年齢

中絶縣島尻郡知念村字知名千四百十八号地

光吉三男、農場労働者

海 軍

0585



運天先仁

明治二十六年十月四日生

同縣同郡大里村字與名原九百九十畝地

杉長男農場勞働者

親泊亀千代

明治二十五年四月十一日生

同縣同郡真知志村字與儀千七十畝地

農場勞働者

知名朝信

明治二十五年七月二日生

同縣中頸郡北各村字屋良久二千十九畝地

杉茂長男農場勞働者

屋良松

0586

明治二十七年九月十九日生

同縣同郡美里村字石川千十六町地

源右部孫農坊方働者

宮城 松吉

明治二十八年八月六日生

同縣同郡読谷山村字楚辺三百十六町地

池原 沼留

明治十八年四月二十日生

二事 由

以上六名ハ元西村拓殖株式会社労働者タリシカ  
客月十四日屋良杉ヲ除ク五名ハ其年素  
ノ言動不穩ナリトテ雇主ヨリ解雇ノ  
通告ヲ受クルヤ之ヲ不當トシ直ニ同縣人

0587

約二百名ヲ呼合指揮シ同族及其型十	五日ニ互リ同車務所ヲ襲ヒ車務負ヲ	脅迫シ農場長堀江棟吾ノ社宅ニ泊リ	其雨戸戸袋ヲ破壊シ家宅ニ侵入至長	松ハ林田車務負ヲ殴打シ傷害ヲ興	ヘタルモノニシテ將來島ノ治安ヲ妨害	スルノ者アリト認メタルニヨル
------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------	-------------------	----------------

0588